

科目名	子どもの保健	教員名	藤澤 和子	開 講	保育科	1年次	前・後期
. 目的と内容							
<p>1. 子どもの健康と保育の意義を学ぶ。</p> <p>1) 子どもの発育・発達(身体的発育・生理的機能・運動機能・精神的機能)を学習する。</p> <p>2) 子どもの疾病について、疾病の特徴と予防方法について学ぶ。</p> <p>3) 生活環境と心の健康関連について学ぶ。</p> <p>4) 子どもの安全とそれらを実施するにあたっての組織体制作りについて学ぶ。</p> <p>5) 日常の生活の仕方が、からだと心が健全に育っていくことを認識し、学生自身が自分の健康に関心を向け、免疫について考える機会とし、健康観を養う</p>							
. 授業計画 [ 単位数 : 4 単位、授業週数 : 30 回 ]							
[ 前期 ]				[ 後期 ]			
<p>1. 子どもの健康と保育を学ぶ意義</p> <p>2. 「健やか親子21」について</p> <p>3. 身体的発育(遺伝因子、身長・体重、骨、発育評価)</p> <p>4. 生理的機能(脳・シナプス、感覚器、体温、発熱、)</p> <p>5. 生理的機能(呼吸、脈拍、循環、消化・吸収、排泄、)</p> <p>5. 生理的機能(水分代謝、脱水、睡眠、免疫機能)</p> <p>6. 運動機能(発達順序、反射、微細運動、姿勢)</p> <p>7. 精神機能(ことば、情緒、社会性、精神発達の評価)</p> <p>8. 栄養と食生活(エネルギー、三大栄養素、)</p> <p>9. 栄養と食生活(ミネラル、ビタミン、食物繊維)</p> <p>11. 栄養と食生活(酵素・食物繊維・腸内細菌)</p> <p>12. 免疫機能(白血球、自律神経、内分泌系)</p> <p>13. 免疫機能(アレルギー、アトピー、花粉症)</p> <p>14. 予防接種とワクチン</p> <p>15. 予防接種とワクチン</p>				<p>1. 子どもの疾病特徴と予防(ウイルス感染症)</p> <p>2. " " (細菌感染症)</p> <p>3. " " (呼吸器の病気)</p> <p>4. " " (循環器の病気)</p> <p>5. " " (消化器の病気)</p> <p>6. " " (血液、内分泌、糖尿病)</p> <p>7. " " (腎臓・泌尿器・)</p> <p>8. " " (神経 熱性痙攣、髄膜炎)</p> <p>9. " " (骨、皮膚、感覚器)</p> <p>10. " " (アレルギーによる病気)</p> <p>11. 児童虐待(SIDS、他)の要因とその対応</p> <p>12. 子どもの事故(溺水、やけど、熱中症、異物誤嚥)</p> <p>13. 子どもの事故の安全に対する組織体制作り</p> <p>14. 心の健康観について(星の王子さまを読み解く)</p> <p>15. 母子保健行政と法律</p>			
. 講義の進め方							
<p>テキストにない事例や、最新の新聞記事・参考資料を交えていくので、テキストだけでなく資料も参考に社会の情勢に関心を向け授業に臨む姿勢が重要となる。</p>							
. 試験と成績評価							
<p>レポート(前期・後期)      授業中の態度      毎回のミニレポート</p>							
. 担当教員から受講生諸君へ							
<p>核家族社会の中で、子育てに自信がもてない母親が増えている。このような社会の中でいかに子供と一緒に育っていくか、事例を通し一緒に考えていきたい。</p> <p>身体のしくみについて、自分自身の身体が教科書になることを認識し、自分の身体に関心をもち日常生活で自ら健康生活を実践すること。</p> <p>保育士の関わりがこどもの将来の人間性に大きく影響することを認識し、保育士自身の自己覚知についても学ぶ。聴く態度の育成をモットーに、人の話が聴けることを重視し板書はできるだけ少なくする。</p>							
. 使用教材							
<p>教科書 : 『わかりやすい小児保健』 西村昂三 編著(同文書院)</p> <p>参考書 : 『育児の生理学』 瀬江千史 著(現代社)</p> <p>参考書 : 『星の王子さま』 サン・テグジュペリ (岩波書店)</p> <p>その他 : 必要に応じ資料配布</p>							